

街にあふれる思いやり

高一

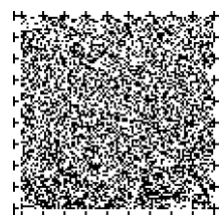
みなさんは困っている人と関わりたくないから、からかうとおもしろいから、自分と違うからというだけで、人を差別してはいませんか。僕は、世の中にいるすべての人は、その人らしく生きられるべきだと考えています。今日はその話をしたいと思います。

はじめに、いじめ問題です。これは人権を無視した行為であると同時に、犯罪に等しい行為でもあります。自分が人からされていやだ、と思うことを仲間や友人にすることは、絶対あってはならないことです。皆さんの周りには、最近様子が変わったなあ、変だなあ、と思われる人はいませんか。そのような人がいる時には、いじめではなかったとしても、その人に「どうしたの？」と声をかけたり、「一人じゃないよ、みんながいるよ。」と励ましたりすることが大切です。その人に、決して、孤独でひとりぼっちだと思わせてはいけ

ません。

個人の人権を守る、という言葉をよく耳にします。実際にはどうすればいいのかわからないことがあるでしょう。しかし、今も述べたように、辛そうにしている人に気づき、そしてすぐに声をかける、励ますなどすれば、それだけで個人の人権を守っていることと同じになると思うのですが、みなさんはどうお考えでしょうか。たとえどんなことでも、一つ二つと積み重ねていけば、少しずつではありますが、いじめが減っていく、そして将来なくなっていくと思います。ぜひ、いじめをなくしていきましょう。

次に、こういうことはまわりの人に迷惑だろうと思うことをいくつか話したいと思います。一つ目は、点字ブロック上に置いてある自転車のことです。目が見える人は大丈夫ですが、目の不自由な人は、自転車があるとぶつかってしまい、とても危険です。車椅子の人や障害のない人にとっても、道幅が狭くなり迷惑です。人々が気持ちよく歩道を歩くために、どうか自転車を置かないでください。



二つ目は、電車の優先席について話します。優先席を必要としている人が目の前にいるのに、席を譲ろうとする人が少ないということです。優先席には本当に必要としている人が座るべきだと思います。席を譲るのを恥ずかしいと思う人がいるかもしれません。しかし、お年寄りや障害のある人を思いやるのであれば、ぜひ勇気を出して譲ってください。

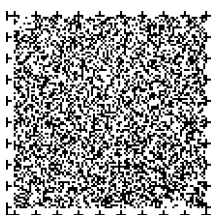
これまで述べてきたことは、社会でもよく取り上げられていることですが、ここからは、自分自身が体験したことを話します。僕は日頃からたくさんの方に見守られていると感じています。たとえば、学校の帰りに歩いていると、ご近所の方が車で通りがかり、家まで送っていただいたことが何度もありました。僕にとって、このような思いやりは、とてもありがたく、うれしいことです。さらに、一人で街に出かけ、買い物をしている途中、段差につまずいて転んだ時にも、近くにいる人たちが助け起こしてくれました。電車に乗っている時も、見知らぬ人から席を譲ってもらい、とても助かったことがあります。他にも僕を支え

てくれるたくさんの人たちがいました。リハビリに通っている病院の先生方に、親や学校の先生にはなかなか言えないことや、自分一人では解決できないことを相談にのってもらった時もあります。

最後に、両親の話をさせていただきます。父と母はいつも仕事で忙しくて疲れているのに、僕のためにスクールバスのバス停まで四十分以上かけて、毎日一緒に歩いてくれます。また、学校での行事や大会の練習などがあるたびに、車で迎えに来てくれます。ある時には厳しくしかり、時には優しい言葉で諭してくれる父と母。その思いやりや愛情に私の心の中は感謝の気持ちでいっぱいです。

先ほども述べたように、僕は周りのたくさんの方からの思いやりを受けて生活しています。その人たちに対して、ずっと感謝の気持ちを持ち続けていかなければならないと思っています。

僕は足に障害があります。しかし、その障害を理由に特別な目で見えてほしくはありません。障害のある無しではなく、どんな人に対しても同じような





温かい気持ちで接してもらえたらいいなあと思います。
そして、その人らしさをお互いが自然に認め合
う、そんなさわやかな気持ちをみんなで持って生
きていけたらと考えています。

